

豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために

小鮒 守 (NPO 法人尾瀬自然保護ネットワーク)



キーワード：尾瀬国立公園、至仏山、燧ヶ岳、生物多様性、自然保護・保全、地球温暖化

1 はじめに

NPO 法人尾瀬自然保護ネットワークは、1997 年に設立し、前身である「尾瀬の自然を守る会」で培った自然保護思想や現地指導のノウハウを生かし、貴重な尾瀬の自然を後世に残すために、有志によるボランティア活動として地道な取り組みをして来ました。貴重な自然遺産である尾瀬国立公園を守るために、広く一般市民を対象に、入山指導、自然解説、自然観察会、自然保護指導員の育成を通して自然保護に関する普及・啓発活動を行っています。43年の活動の実績を持つ本会は、これからも、自然環境や景観の維持保全を図り、自然と人間が共存できる豊かな社会の実現を目指して行きたいと考えています。

最新情報

2013 年 4 月、尾瀬国立公園の至仏山の登山道の在り方を検討してきた公益財団法人尾瀬保護財団の至仏山環境調査専門委員会により、植生の荒廃が著しいとして、ルート変更の検討対象となっていた3区間で、迂回ルートを示す最終報告がまとめられた。登山道の現状課題が解決できる確かな対応が示されることを期待したい。



2 主な活動

○入山指導とバス添乗解説

6月から10月にかけて、福島県側・群馬県側で主に御池ロッジと鳩待峠周辺で、リーフレットを配布しながら入山指導を実施。最新の尾瀬情報を伝えつつ自然保護や安全面について伝えている。また、尾瀬御池-沼山峠登山口では、バス添乗により自然保護の重要性を解説。

○鹿による植物への被害状況調査

ライトセンサス調査により尾瀬ヶ原に生息するニホンジカの数を調査。また、大江湿原・尾瀬ヶ原ではニッコウキスゲへの食害状況を確認。

○移入植物の除去作業

侵略的外来植物である移入植物(オランダガラシ)の現状調査を行い、白砂湿原にて抜き取り作業を実施。2011年10月8日の作業では、8.3kgを除去。

○地球温暖化の影響調査

標高2000mの笠ヶ岳で、高山植物の分布調査。また、大津岐峠に向かう登山道で、ツバメオモトの分布状況を調査。(3年以上の継続調査として実施)

○尾瀬の負の遺産への対応(過去のごみ投棄問題)

尾瀬には、負の遺産として、現在に至るも、過去に捨てられた空き瓶や空き缶などの膨大なゴミ問題が残されている。本会としては、尾瀬沼東岸で、手作業によるゴミ拾い活動を実施。



○至仏山登山における、トイレ問題の提起

至仏山登山には、7時間以上にも及ぶ時間を要した貴重な高山植物の宝庫であるにもかかわらず、国立公園内で在り、トイレの設置がないため至る所に糞尿の跡が散見される。

当会では、2015年より、トイレアンケートを実施しながら、至仏山入山時に携帯トイレの持参と普及を呼びかけている。また行政や各団体への提言と連携を実施。

3 至仏山登山道の現状調査と行政機関への提言と連携

○至仏山南面登山道調査(平成24年から3年カ年調査)

尾瀬の代表的な景観をなす至仏山には、貴重な高山植物があり、燧ヶ岳とともに名山に数えられる標高2228m景観の素晴らしい山であり年間12,000~13,000人の登山者が訪れている。この至仏山への登山道は、山の鼻からの東面登山道と鳩待峠からの南面登山道があり、東面登山道は、降雨等による崩壊で植生の荒廃が著しく平成元年より8年間登山道を閉鎖し、その修復と植生の復元を行った経緯があり、現在は「上り専用」としてのみ利用可能となっている。また、両登山道は、残雪期には閉鎖され、至仏山は、入山禁止の措置がとられている。そのため、南面登山道への利用が多くなり、加えて近年は笠ヶ岳への登山者が増える傾向もあり、往復路として益々集中が起こっている。また、平成23年7月末から8月上旬にかけての局地的豪雨により、登山道の崩壊や洗掘が進行し、植生への影響と登山道の安全性の確保が大きな課題となっている。(別紙：至仏山南面登山道調査報告書、別冊：至仏山東面登山道調査報告書を参照)

〈参考資料〉

尾瀬国立公園を生物多様性国家戦略2012-2020のモデル地区へ
—尾瀬の過剰な human-impact と管理に関する提言—

- ①利用調整地区制度の導入
- ②湿原内における木道設置の再検討
- ③環境省公認尾瀬ガイド制度の新設とガイド帯同の義務付け
- ④至仏山の全面入山禁止
- ⑤山小屋の在り方の検討

2014年1月30日 環境大臣へ

今後の課題

- * 登山道の整備、オヤマ沢田代から水場までの登山道の整備
- * 携帯トイレ、鳩待峠から至仏山登山所要時間が約7時間山頂部にはトイレ設備がない。山頂近くの汚染が問題となる。
- * 至仏山植生復元：山頂直下のお花畑の荒廃・植生復元の道
- * 尾瀬入山利用料金の徴収：
環境維持整備基金、尾瀬の利用と自然保護・適正利用とルール作り

4 おわりに

◆「尾瀬アカデミー」開講のお知らせ

自然保護活動を共に行っていただく、“尾瀬インタープリター養成講座”の受講生を募集しています。講座は、群馬県側と福島県側で、毎年2回(7月と10月)の現地研修で行っています。詳細については、HP募集要項をご覧ください。

Web <http://www.oze-net.com/index.html>

尾瀬ネットワーク

検索

